

令和2年度

東京海洋大学基金
活動報告書



東京海洋大学基金

海洋分野から、未踏の世界に。そして多様性のある大学へ
皆様のご寄附が、海洋の未来を拓きます

学 長 挨 拶

皆様には、日頃より東京海洋大学へご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様からご支援いただきました「東京海洋大学基金」を活用した事業を本年度も実施することができましたこと、誠にありがとうございました。

特に、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、家計が急変した学生やアルバイト収入が減少した学生が増加したため、学修支援を目的として奨学金給付、修学支援貸与金、授業料免除、授業料徴収猶予、遠隔授業への対応費用補助等を行うとともに、私費外国人留学生の新規渡日に対する受入支援等の手厚い支援等を行いました。

相次ぐ変異株の出現により、新型コロナウイルス感染症は未だ終息の気配を見せていません。未来を担う学生の多様な活動を支援するために、この基金事業を継続・発展させていくことは必要不可欠であると考えております。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人東京海洋大学長

井関 俊夫

Message



理事・副学長

庄司 るり

理事・副学長（学生支援・広報担当）からのメッセージ

本学では、経済的理由により修学が困難な学生を支援するため、平成28年11月に「修学支援事業基金」を設置し、これまで多くの皆様方からご支援いただいたご寄附をもとに、学生の経済的支援をしてまいりました。

特に、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた学生も含め100名以上に総額約650万円の経済的支援を行うことができました。いただいたご寄附に対して改めて感謝申し上げますとともに、今後も修学困難な学生の支援ため、温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

事業概要

東京海洋大学基金は、本学における教育研究、国際交流及び社会連携に関する活動等の推進を図るとともに、教育研究環境の整備充実に資することを目的としています。



東京海洋大学基金プロジェクト一覧

A 一般基金 目的指定なし

目的指定をせず、大学全体のために活用します。

B プロジェクト基金

- ◆ 大学プロジェクト
- ◆ 修学支援プロジェクト（修学支援事業基金）
- ◆ 研究等支援プロジェクト（研究等支援基金） R4.1～
- ◆ グローバル教育支援プロジェクト
- ◆ 学部・研究科等プロジェクト
 - ◆ 海洋生命科学部 ◆ 海洋工学部 ◆ 海洋資源環境学部 ◆ 海洋科学技術研究科（大学院）
- ◆ 課外活動等プロジェクト
- ◆ 「明治丸」海事ミュージアム事業プロジェクト
- ◆ 「雲鷹丸」修復事業プロジェクト
- ◆ 附属図書館整備充実プロジェクト
- ◆ 海洋生命科学部及び海洋資源環境学部 学術研究奨励基金プロジェクト
- ◆ 越中島プラネタリウム修繕プロジェクト
- ◆ 卓越大学院プログラム教育基金プロジェクト
- ◆ 館山・富浦ステーション等保存支援プロジェクト
- ◆ 海洋工学部国際交流基金プロジェクト



寄附メニュー

収支報告

皆様からの温かいご支援により、令和2年度の東京海洋大学基金の受入総額は、約2.6億円に達しました。

また、寄附の目的に沿って各支援事業に充てさせていただきました。



活動報告書

寄附金支援事業（支出額）

寄附金受入総額

| 寄附者区分 | 件数 | 寄附金額（千円） |
|-------|-----|----------|
| 法人 | 16 | 258,000 |
| 個人 | 285 | 9,080 |
| 合計 | 301 | 267,080 |

| 支援事業 | 執行額（千円） |
|------------------|---------|
| 学生の修学支援 | 21,384 |
| 教育研究環境の整備 | 2,063 |
| 学術資料の収集・管理等 | 48,549 |
| その他基金の目的達成に必要な事項 | 2,985 |
| 合計 | 74,981 |

活 動 報 告

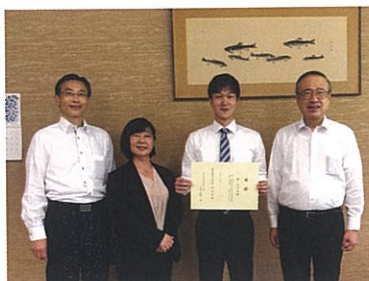


学生の修学支援 総額約 2,100万円

修学支援事業

修学支援事業とは経済的理由によって授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる学生に、授業料相当の学費の一部を支援するための奨学金給付です。

令和2年度は前期6名、後期10名の奨学生を決定し、「修学支援事業基金授与式」を執り行いました。（前期は令和2年9月、後期は令和3年3月）授与式は三密を避けるため代表者のみの出席とし、竹内学長（当時）から代表者に目録10万円（1人当たり）を授与しました。



修学支援事業基金授与式の様子

新型コロナウイルス感染症対策助成事業

- ▶ 新型コロナウイルス感染症対策助成事業（日本学生支援機構との共同実施）
コロナ禍の影響により修学が困難となった学生82名に5万円（1人当たり）の現金給付を実施しました。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の水際対策（私費外国人留学生）
新規に渡日する私費外国人留学生14名に、水際対策に基づきホテルに14日間隔離滞在中の費用の一部5.8万円（1人当たり）を支援しました。
- ▶ 修学支援貸与金
コロナ禍の影響により家計事情の急変、アルバイトの収入減少などで、生活支援を必要としている学生や遠隔授業への対応の必要がある学生14名に6万円（1人当たり）を貸与しました。

課外活動補助等

コロナ禍の影響により、各種競技大会等が中止となるなど、制限がある中で課外活動を行いました。皆様のご支援で必要な器具類等を購入することができました。



購入したボート部のスカルオール

教育研究環境の整備 総額約 200万円

館山・富浦ステーション等保存支援基金

老朽化したフェンスの一部が、令和元年9月の台風15号により市道側に倒壊しました。市道の通行に危険な状態となり、かつ、外部からステーション内に自由に入出入りできる状態となり、防犯上からも問題であったため、敷地境界フェンス取替工事によりこれらの問題点が改善できました。



施行前



施行後

附属図書館整備充実

学生のアクティブ・ラーニング（学生が能動的に学習に取り組む学習法）促進を期待し、資料の展示・紹介や学生の企画を誘致し発表への活用を想定したユニットシェルフを導入しました。



学術資料の収集・管理等 総額約 4,850万円

- ▶ 旧東京水産大学卒業生のスクーナー株式会社代表取締役社長樋口信行様から、「京都銀行SDGs 私募債『未来にエール』～次世代を担うこどもたちへ～」を通じて、授業の指定テキストや学生からリクエストのあったものを中心に、図書を寄贈いただきました。<附属図書館>



- ▶ 基金により、授業指定図書・シラバス掲載の教科書、教員の選定する専門性の高い資料、洋書など整備することができました。特にオンライン授業実施により来館できない場合でも利用できる和洋電子書籍の充実を図りました。<附属図書館越中島分館>



- ▶ 重要文化財「明治丸」の修復及び維持管理のために使わせていただきました。
※重要文化財「明治丸」「百周年記念資料館」「明治丸記念館」の観覧については明治丸海事ミュージアムのホームページをご覧ください。



支援いただいた学生の声



<修学支援事業>

修学支援事業基金奨学金をいただきまして、誠にありがとうございました。修学支援事業基金奨学金に寄附をしていただいた方々に心より感謝申し上げます。おかげさまで、アルバイトの時間を控え、学生の本業である勉強に最も力を入れることができます。今後も皆様からのご恩を忘れずに、社会に役立ち、国際友好に貢献できる者になれるように努力し、今まで私を支援して下さいました皆様方のご期待に添えるよう、日々精進して参りたいと思います。(学部2年生・留学生)

奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。私は海に携われる仕事に就くために、奨学金のご支援をいただき学業に励んでおります。この奨学金は、私の学生生活のうえでも大きな支えとなり、現在は学業に専念できています。ご支援をくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。幸いにも海に携われる企業への内定が決まり、今後は研究活動に邁進して、立派な社会人として自立できるよう、一層の努力を行ってまいります。(修士1年生)

<新型コロナウイルス感染症対策助成事業>

現在、生活していくにあたり十分な量のアルバイト収入を確保できていない状況にあります。そのような状況で、このようなご支援をいただけることは学習面だけでなく精神的な面においても非常に心強いです。いただいた支援金は、普段の生活費や教科書購入などの生活および学習の費用として使わせていただきます。多大なるご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。(海洋工学部2年生)

ご支援に心から感謝申し上げます。経済的困難な中で学業を志しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあってアルバイト収入が乏しく、切り詰めた生活と先の見えない不安で一杯でした。自分ばかりが大変なわけではないと承知してはいるものの、助けが欲しかったのは正直な気持ちです。いただいたお金は健康に留意した日常生活を送り、一層学業に励むために大切に遣います。本当にありがとうございました。充実した学生生活を過ごし、ご支援くださった皆様のように将来は学びを志す若者を支える人間に成長したいと思います。(海洋資源環境学部1年生)

ご寄附を誠にありがとうございます。いただいたお金は修学継続のために、学費や生活費に充てさせていただきます。非常に助かりました、重ねて御礼申し上げます。(海洋生命科学部1年生)

アルバイト代や奨学金で生活費、授業料を賄っている修士1年生です。レジャー施設でアルバイトをしており、売り上げ低下に伴う人件費削減により収入が減少しておりました。他にもアルバイトに応募しましたが、コロナの影響でなかなか雇ってもらえず、困っていたところを助けていただきました。今回いただいた給付金は授業料や大学への交通費に使わせていただきます。誠に感謝申し上げます。(修士1年生)

この度は多大なるご支援を頂き心より御礼申し上げます。私自身コロナ禍以前から経済的に困窮しておりましたので、今回のコロナ禍の再発により、現在行っている実験、就職活動、アルバイトのバランスが崩れ、一度大学院を休学することも視野に入れておりました。しかし、困窮した生活を送っている中でも、皆様からいただいたご支援のおかげで、どうにか精一杯生活することが出来そうです。いつの日かこのご恩を返すことができればと存じます。誠に感謝申し上げます。(修士1年生)



寄附者からのメッセージ

皆様からは金銭的なご支援だけでなく皆様からの直接いただく「お声」が東京海洋大学の活動の励みとなっています。

- これからも、社会に貢献できる人を育ててください。
- 卒業生の親です。学生の方が伸び伸びと生活を送られることを願います。
- 我が国のために東京海洋大学の特性を生かした優秀な人材を育成してもらいたい。
- 海洋大を卒業して、専門性の高い分野に身を置いていたと改めて思いました。
- 今後は更にオンリーワンの深掘り教育をしてもらえたらと思います。
- 海洋に関する最高学府として、未来を担う若者の育成を期待します。
- 自分のできる範囲で、研究者のお役に立てればと思い、寄附することにしました。
- 研究者は日本の宝だと思います。がんばってください。
- 経済的理由で、学ぶ機会を失う学生がいなくなればいいと思います。
- 卒業生であり教育関係に就職しているので、お役にたてれば...と思います。
- 大学には古いものも大切にしながら、新しいことにチャレンジしてください。
- 新型コロナウイルス感染で修学が大変な学生もいると聞きますので寄附させていただきます。
- 海洋国日本の海洋学研究の推進

新規プロジェクト「研究等支援基金」 令和4年1月より

本学では、学生（大学院生・学部生）やポスト等、若手研究者を支援するため、「研究等支援基金」を設置しました。皆様からのご支援は、次のような活動等に充てさせていただきます。本基金の趣旨をご理解いただき、温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【使 途】

1. 公募により選定されて参加する研究に関するプロジェクトにおいて、研究者等が自立した研究者として行う研究活動全般に必要な費用とし、人件費を含む研究費を助成するもの（ただし、人件費のみを助成するものは除く）
2. 研究成果を発表するための学会誌投稿料、ホームページ作成費用及び研究成果広報用パンフレット作成費用などを助成するもの
3. 学部生を除く研究者等の能力、資質の向上を目的として、国内外の研究機関又は学会などへの派遣費用を助成するもの



【事 業】

1. 研究者等が公募により選定されて参加する研究に関するプロジェクトにおいて、その研究者等が自立した研究者として行う研究活動に要する費用を負担する事業
2. 論文の刊行に要する費用、学会等への参加に要する旅費その他の費用で研究活動の成果を発表するために必要なものを負担する事業
3. 学部生を除く研究者等のその専門とする分野に係る研究者としての能力及び資質の向上を主たる目的として、異分野の研究者との交流その他の研究者又は実務経験を有する者との交流を促進する事業

※本基金は「修学支援事業基金」と同様に、個人からご寄附にいただいた場合、税制上の優遇措置の対象となります。具体的には「所得控除」のほか、「税額控除」も適用となり、確定申告の際に寄附者様において、いずれか一方の控除を選択いただけます。

ご 寄 附 へ の 謝 意

寄附者の皆様に深い感謝の意を込めまして、ご希望いただきました方へは、以下のとおり本学から謝意を表します。

▶ 寄附者芳名録

ご芳名を本学ホームページに掲載し、末永く歴史に刻ませていただきます。

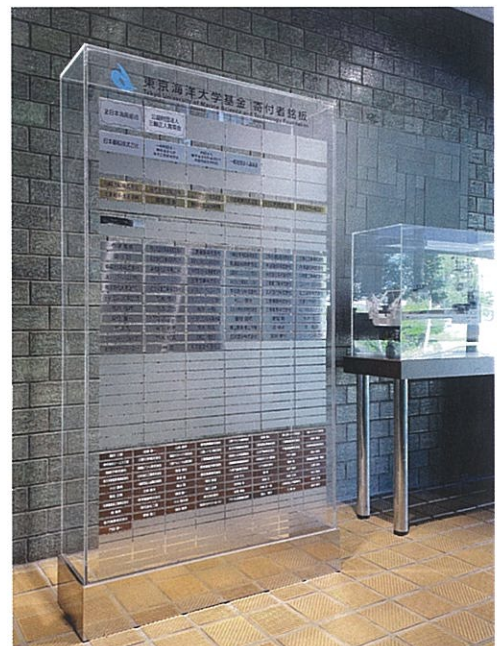
▶ 感謝状贈呈

寄附累計額が10万円以上の皆様に感謝状を贈呈いたします。

▶ 寄附者銘板への掲載

寄附累計額が30万円以上の皆様につきまして、寄附者銘板にご芳名を記し、顕彰させていただきます。

銘板は品川キャンパス・越中島キャンパスに設置しております。



寄附者銘板 152名 (R3.3現在)

▶ 「感謝の集い」にご招待

本学が平成23年に「東京海洋大学基金」を設立して以来、一定額（累計30万円）以上の寄附をいただいた方々をお招きして、直接謝意をお伝えする「感謝の集い」にご招待いたします。

お問い合わせ先
東京海洋大学基金
基金渉外課

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
TEL 03-5463-4279 FAX:03-5463-0359
E-Mail:ef-kikin@o.kaiyodai.ac.jp
URL:<https://www.kaiyodai.ac.jp/kikin/>



東京海洋大学基金